

Ⅱ. 歯科領域における画像診断の進歩

九州歯科大学口腔診断学講座画像診断学分野

教授 森本 泰宏



略 歴

昭和60年	福岡県立京都高等学校卒業
平成3年	九州歯科大学卒業
平成7年	九州歯科大学大学院修了
平成7年	九州歯科大学 助手
平成10年	九州歯科大学 講師
平成15年	九州歯科大学 助教授
平成18年	九州歯科大学 教授
	現在に至る

今回、本大会会長であります牧 憲司教授から特別講演のお話を戴き、画像診断の立場から小児歯科専門の先生方にどのようなお話が興味を持って頂けるのだろうかと考えてみました。初めに思いついたのは、小児歯科臨床においても利用する機会が増えつつあるCT、MRIについてその有効性の紹介です。本大学附属病院の小児歯科領域でも最近利用が増えています。これらの装置を用いることで歯牙、顎骨、周囲軟組織の三次元的情報及び骨質の状態を正確に評価できます。勿論、現在の歯科診療で中心的役割を果たしている口内法エックス線写真やパノラマエックス線写真は歯牙及び顎骨の大切な情報を数多く得ることができます。しかし、その情報は二次元的であるため歯牙、顎骨及びその周囲組織の立体的な把握を正確に行うには限界があります。そのため、口内法エックス線写真やパノラマエックス線写真にCTやMRI検査を追加することで、歯牙、顎骨及び周囲組織の三次元的情報を正確に把握することができるのです。

しかし、これら画像の有効性は理解しているものの、読影が困難であるため避けてしまうという先生も少なくないのではないのでしょうか。今回の講演では、CTやMR画像に対するアレルギーを払拭して頂けるように、難しい読影の話は避けたいと思っています。そして、小児歯科臨床における術前検査に必要な情報についてのみお話ししようと思っています。具体的には、日常臨床で遭遇することの多い歯科疾患（埋伏歯の位置、歯牙と上顎洞・下顎管との関係、腫瘍性病変の診査、顎関節症等）についてこれらの画像が有効であった症例を供覧し、解説したいと思っています。その際には、簡単に読影のノウハウについても説明させて頂こうと思っています。また、歯科用CTと全身用CTの違いについても両者の画像を比較することで簡単に解説したいと思っています。今回の講演では放射線に関係するお話しをもう一つさせて戴こうと思っています。その内容は、様々な画像を撮影する際に患者さんが受ける放射線の被曝量とその説明方法についてです。近年、放射線被曝に対する患者さんの意識は、先生方もお気付きの通り、以前とは比べものにな

らない程、増えています。確かに、放射線は身体にとって必ずしも良いものではありません。しかしながら、病変を診断する際に、また病変の治療を行う際に必要不可欠な場合があるのも事実です。そこで、我々歯科医師は、患者さんが受ける放射線による利益が、害より多い場合に放射線を用いた診査及び治療を施す必要があります。このことを正当化という言葉で示します。しかし、現状では、正当化のことを適切に説明することなく、患者さんへの撮影が行われているケースも少なくないと思います。そこで、今回の講演では、我々が日常用いるエックス線撮影において受ける放射線被曝の量について解説し、被曝について患者さんに説明すべき内容をご紹介します予定です。時間が許せば、最近検診に関する宣伝等で耳にされるPET画像についても、その歯科臨床への応用と有効性について簡単にお話ししたいと思います。また、CT、MRI、PET等を用いた歯科関連の研究の現状について、我々の教室で行っていることを中心に紹介させて戴こうと思っています。